

8. DVについて

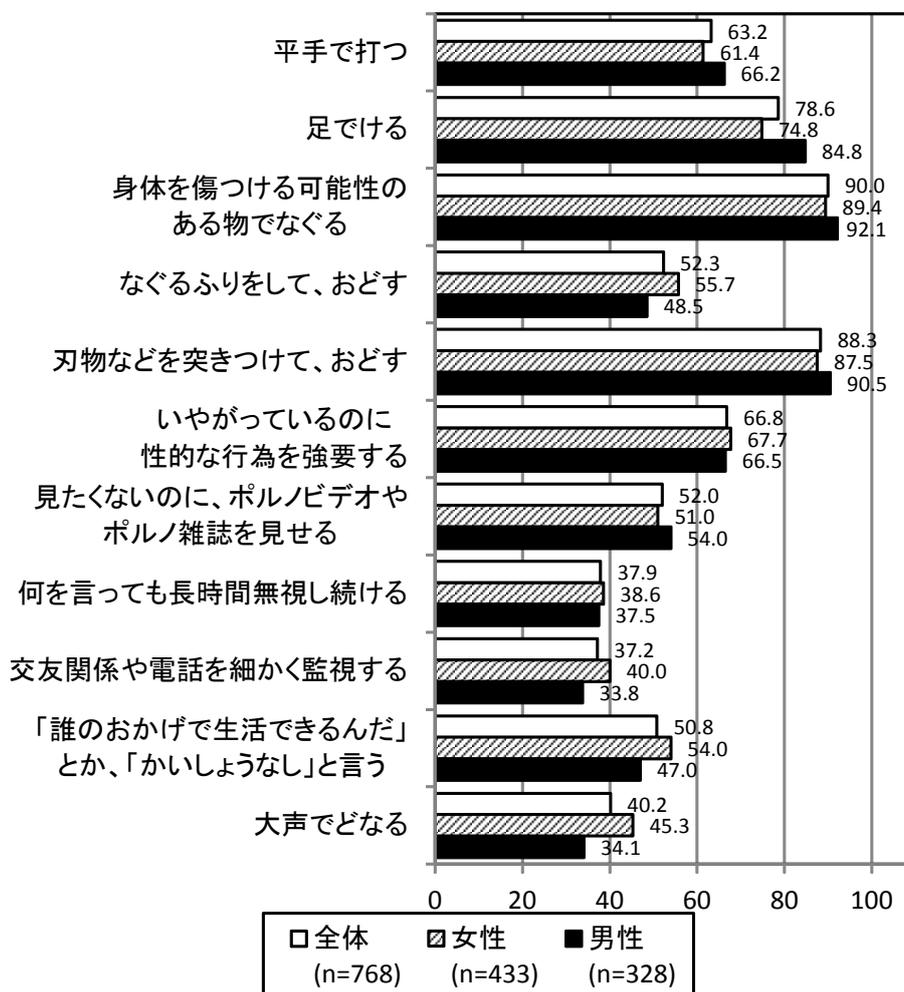
問20 あなたと、配偶者や恋人など親しい間柄にある人（以下「パートナー」と言う）との間で次のようなことが行われた場合、それを暴力だと思いますか。（それぞれについて1つずつ）

- なぐる、ける等の身体的な行為については暴力であるとの認識が高いものの、無視する、暴言を吐く等の精神的な行為については暴力であるとの認識が低い傾向にある。
- 「足でける」、「暴言を吐く」、「大声でどなる」については、男女で意識に差がみられる。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人の割合について、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」が全体90.0%、女性89.4%、男性92.1%と最も多く、次いで「刃物などを突きつけて、おどす」、「足でける」という順になった。

男女別にみると、「足でける」については女性74.8%、男性84.8%と10ポイント差、「誰のおかげで生活できるんだ」「かいしょうなし」と言うについては女性54.0%、男性47.0%と7ポイント差、「大声でどなる」については女性45.3%、男性34.1%と11.2ポイント差となっており、男女の意識に違いがみられる。

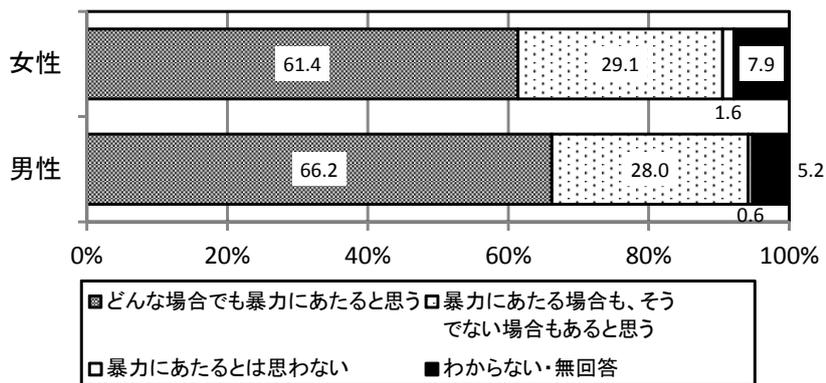
■ 図34 以下の項目を暴力だと思うかについて



単位：(%)

図 3 5 - 1 【平手で打つ】

《秋田県》



《全国》

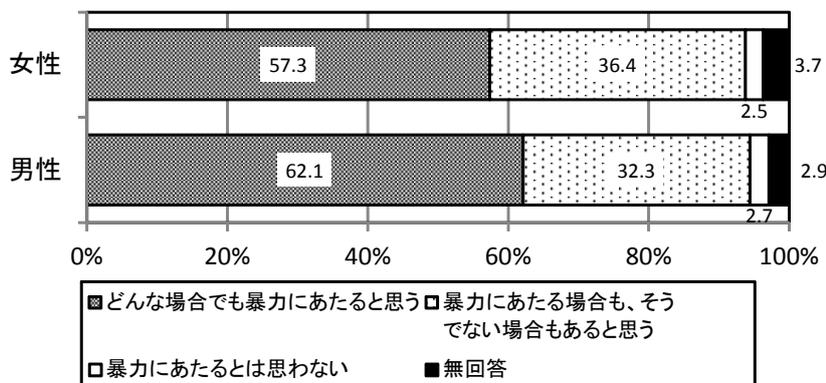
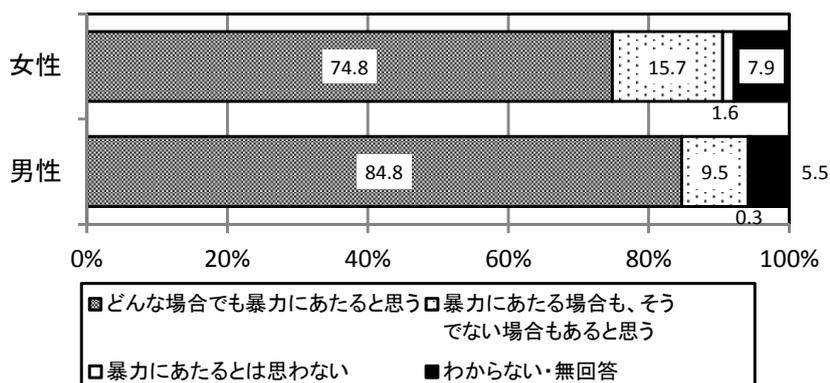


図 3 5 - 2 【足でける】

《秋田県》



《全国》

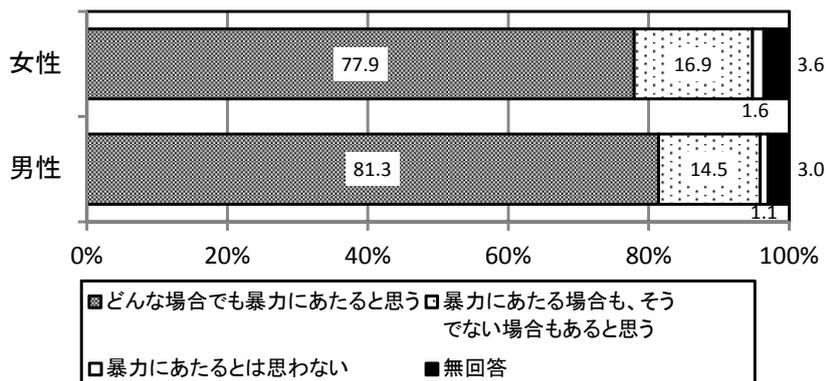
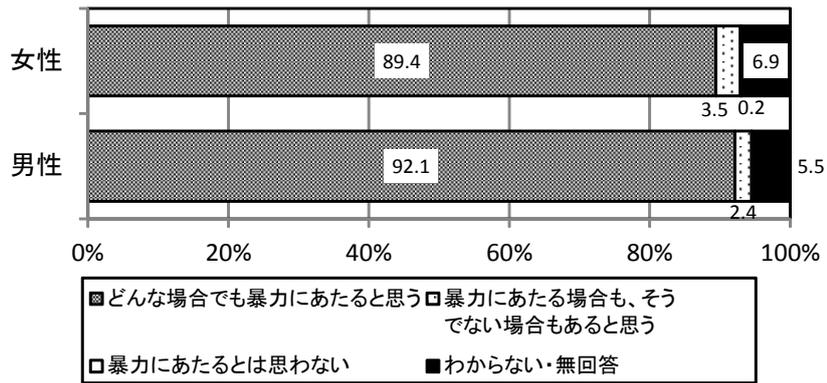


図 3 5 - 3 【身体を傷つける可能性のある物でなぐる】

《秋田県》



《全国》

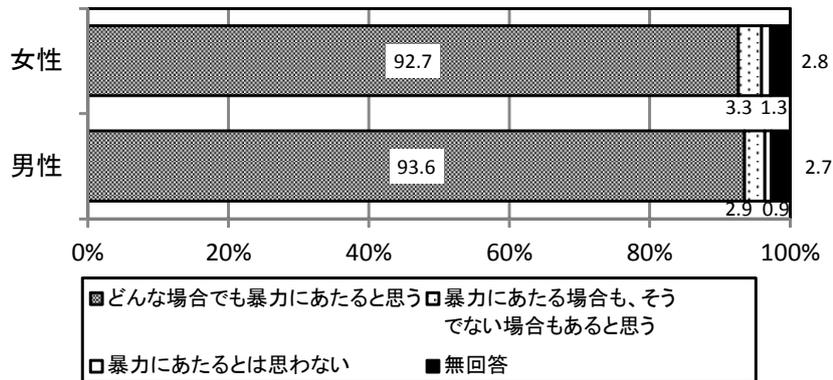
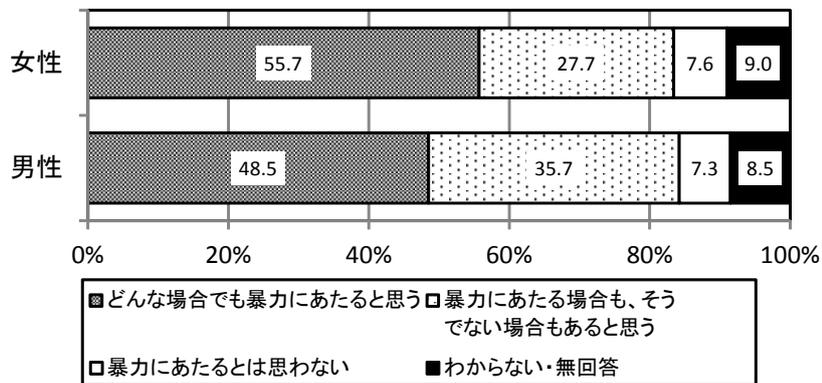


図 3 5 - 4 【なぐるふりをして、おどす】

《秋田県》



《全国》

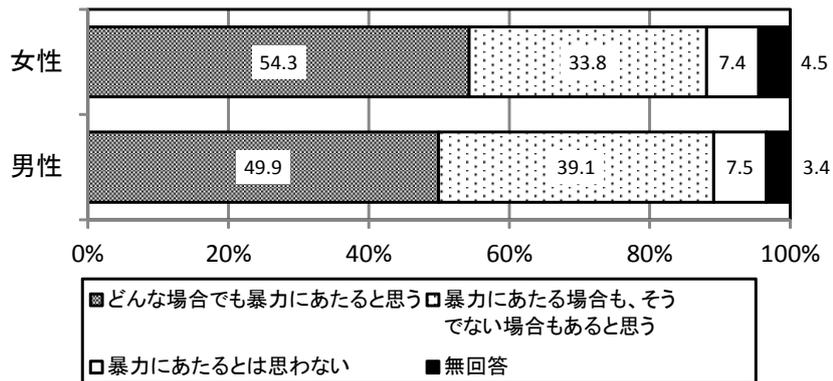
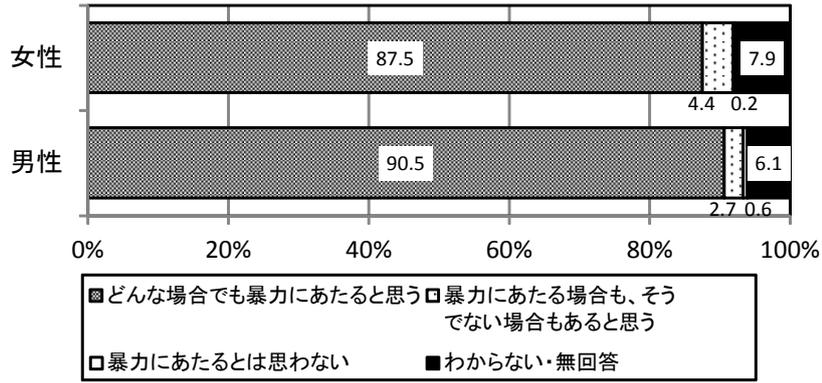


図 3 5 - 5 【刃物などを突きつけて、おどす】

《秋田県》



《全国》

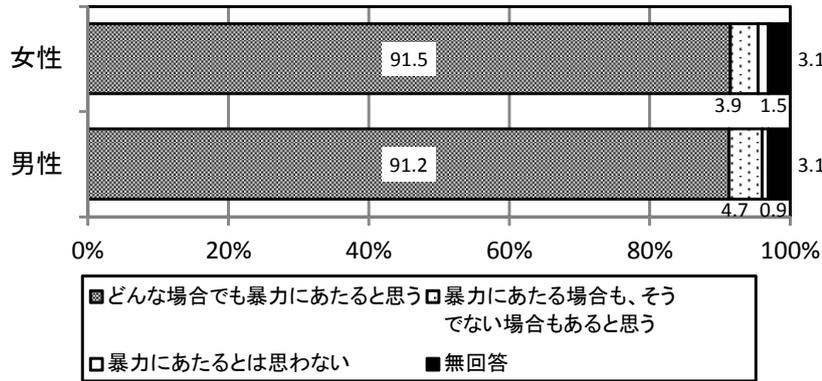
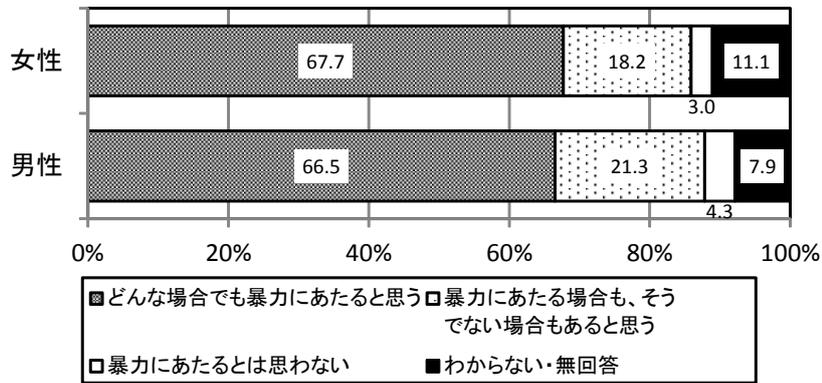


図 3 5 - 6 【いやがっているのに性的な行為を強要する】

《秋田県》



《全国》

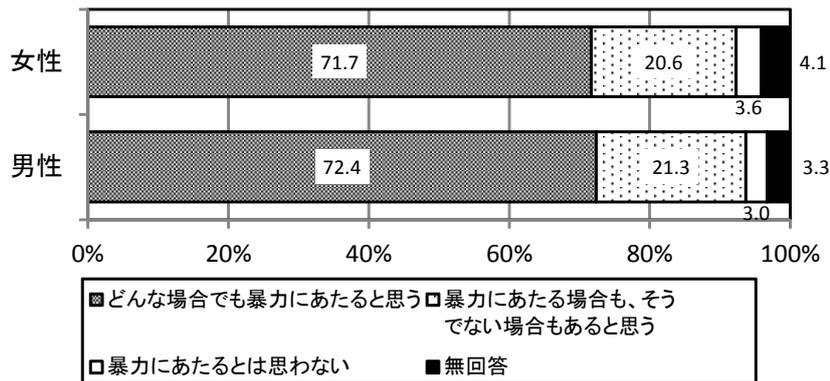
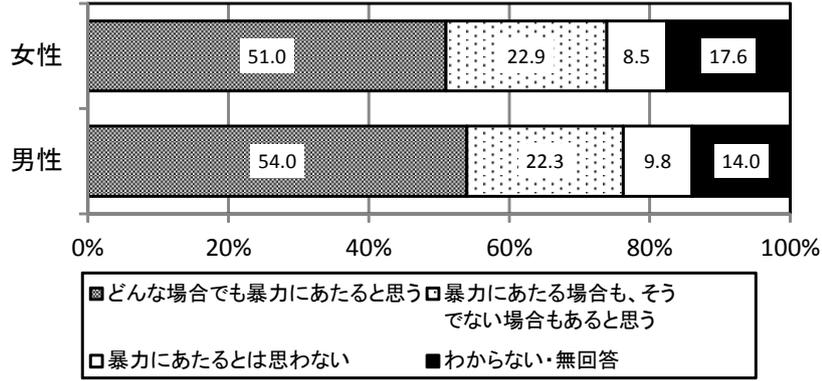


図 3 5 - 7 【見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる】

《秋田県》



《全国》

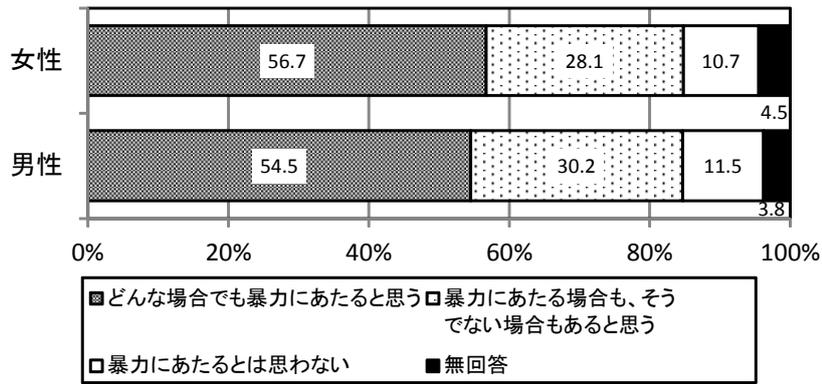
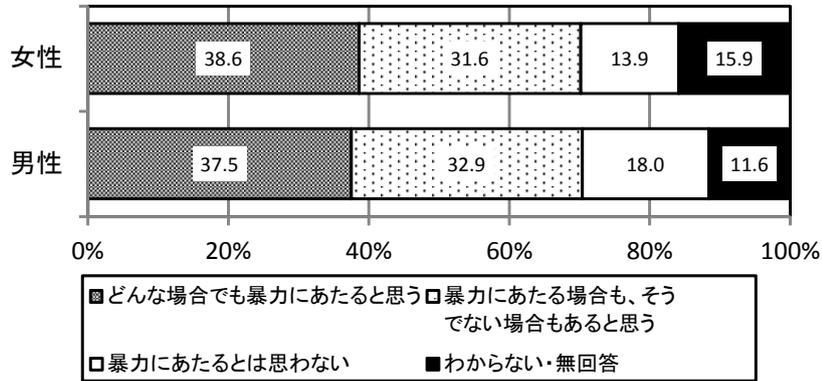


図 3 5 - 8 【何を言っても長時間無視し続ける】

《秋田県》



《全国》

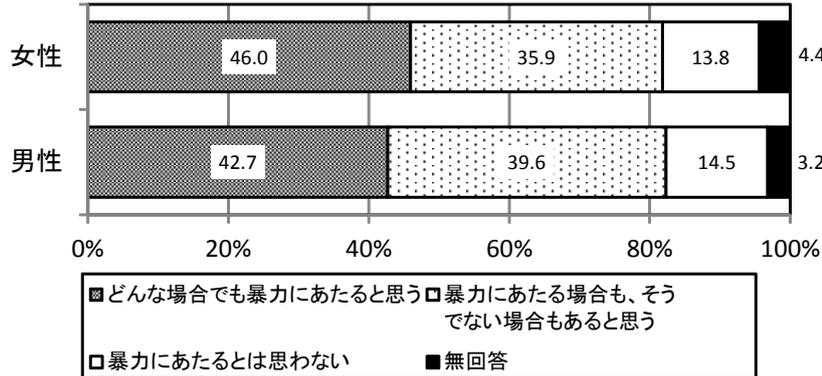
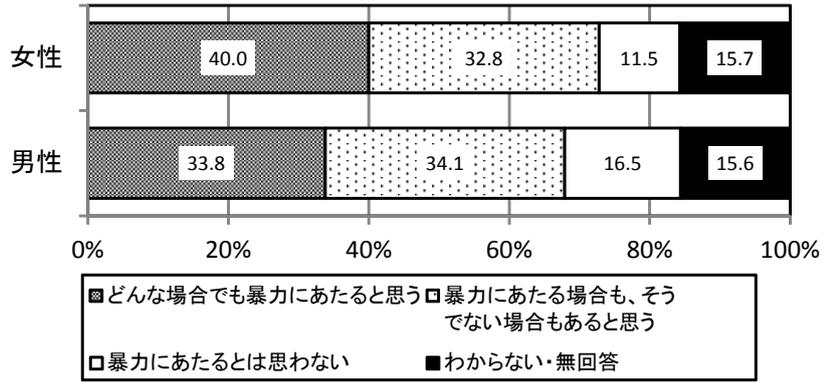


図 3 5 - 9 【交友関係や電話を細かく監視する】

《秋田県》



《全国》

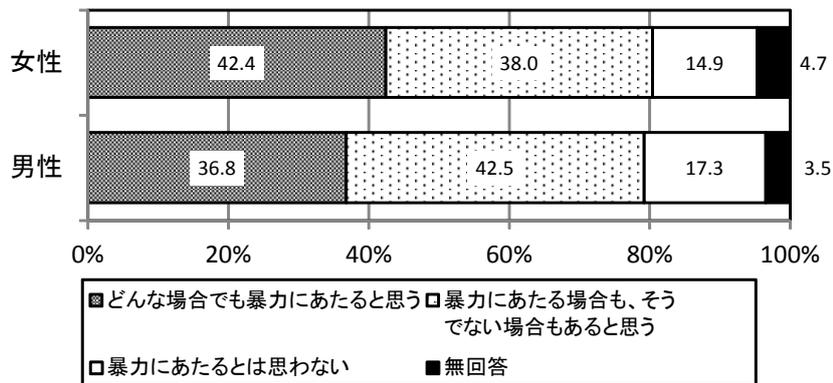
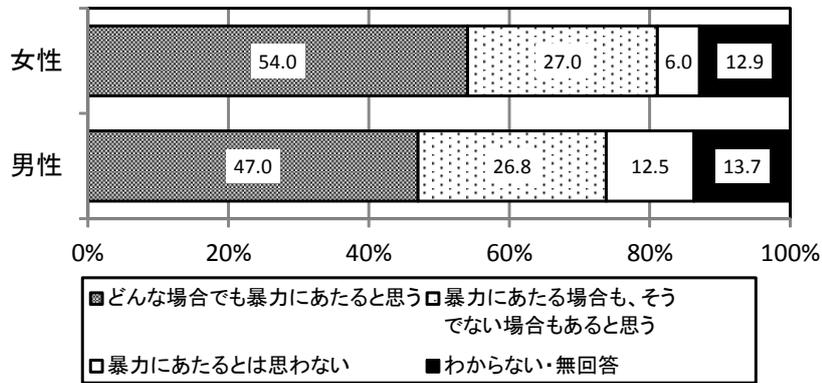


図 3 5 - 1 0 【「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う】

《秋田県》



《全国》

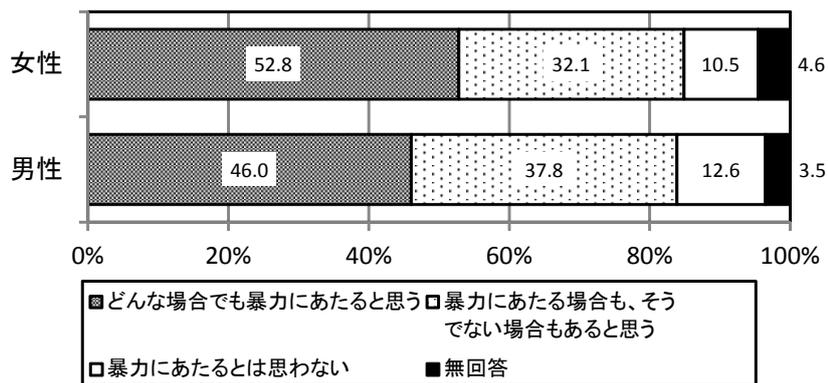
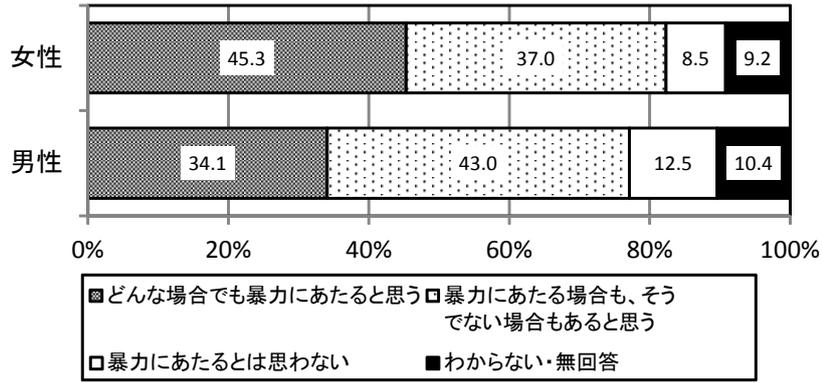
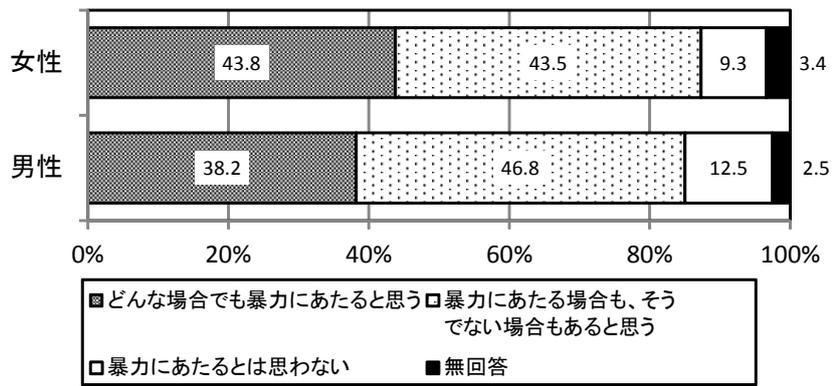


図 3 5 - 1 1 【大声でどなる】

《秋田県》



《全国》

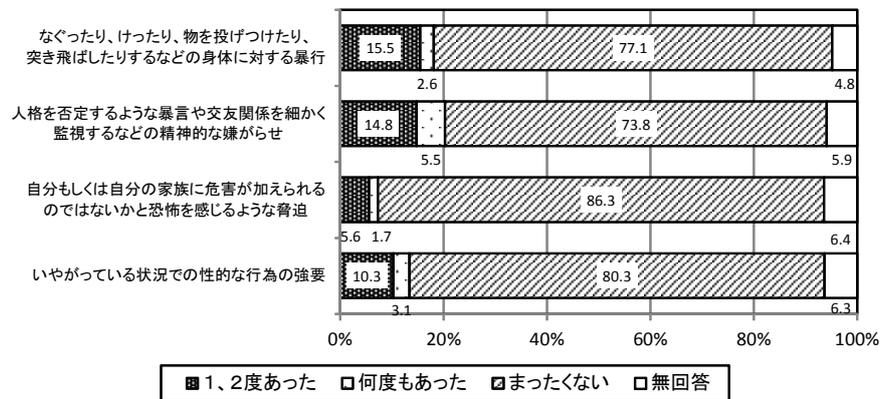


問21 あなたはこれまでに、あなたのパートナーから、次のようなことをされたことがありますか。（それぞれについて1つずつ）

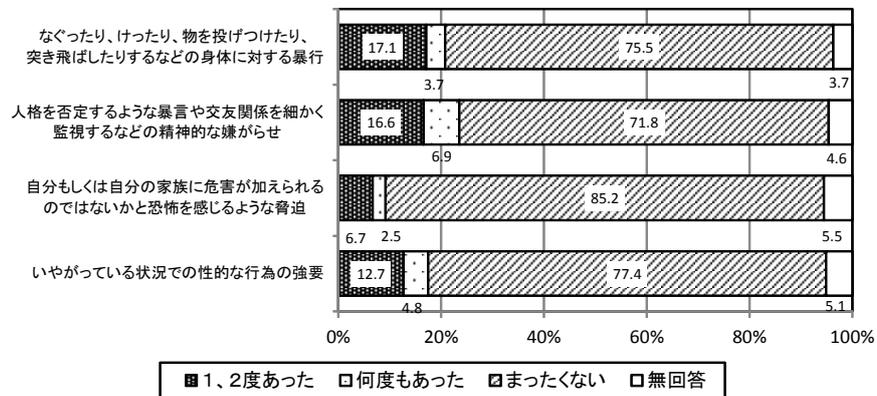
- 最も被害経験のある人の割合が高かったのは精神的な嫌がらせ。
- 男女を比較すると、女性の方が被害経験がある人の割合が多い。

最も被害経験のある人の割合が高かったのは「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ」であり、全体で20.3%、男性で16.5%、女性では23.5%の人が「1、2度あった」または「何度もあった」と回答している。

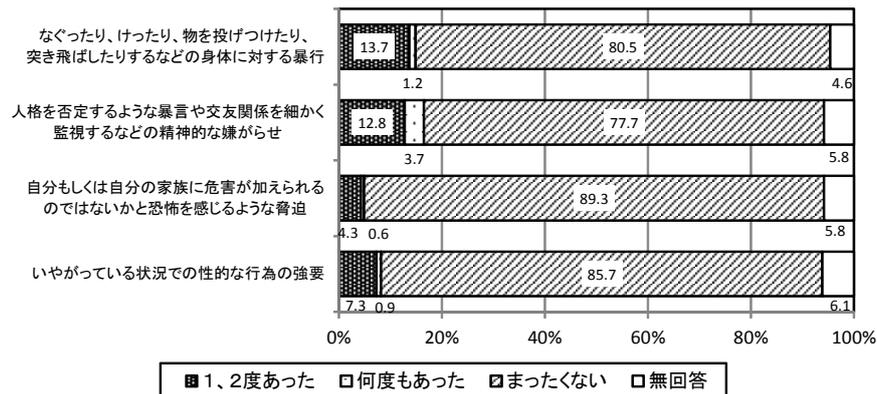
■ 図36-1 パートナーからの被害経験（全体）



■ 図36-2 パートナーからの被害経験（女性）



■ 図36-3 パートナーからの被害経験（男性）



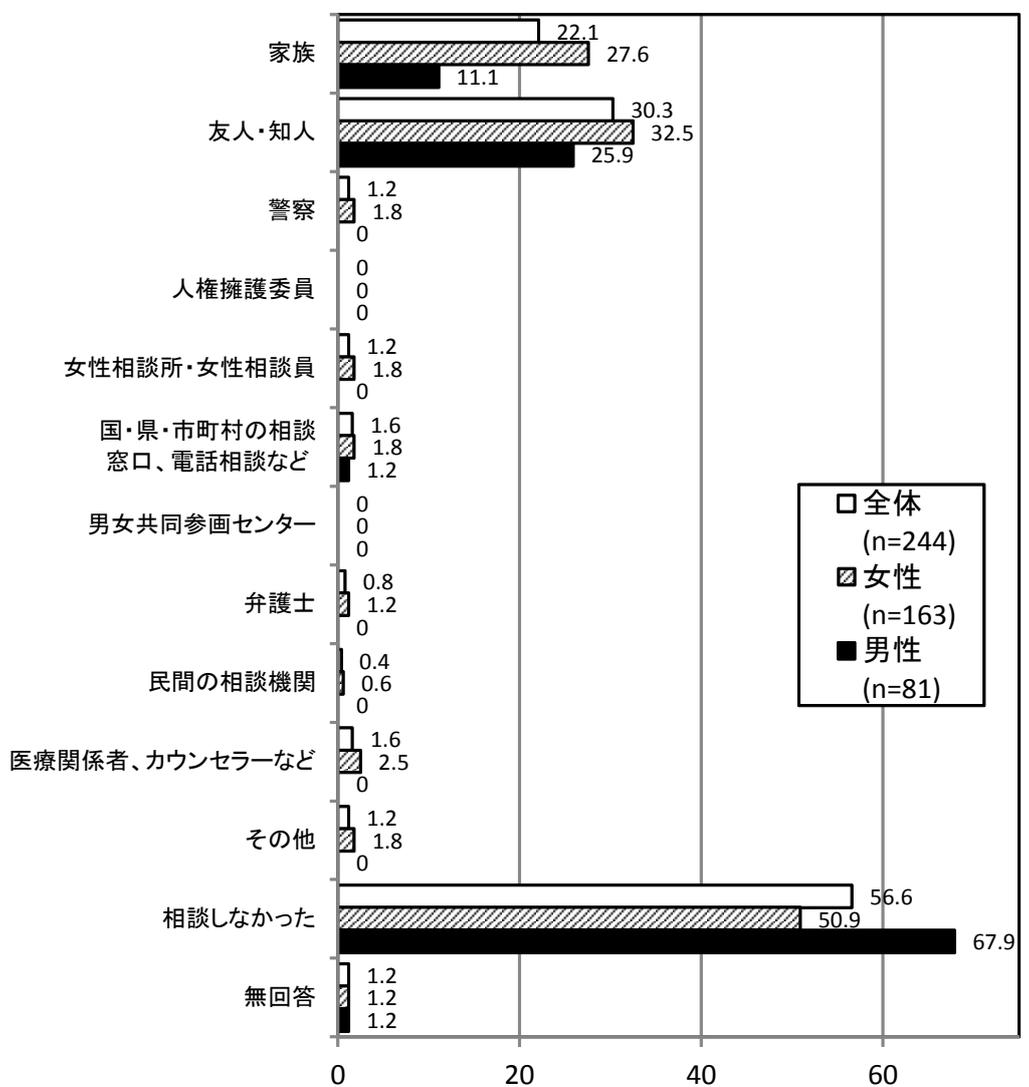
問22 あなたは、パートナーからうけた行為を誰かに打ち明けたり相談したりしましたか。(問21で1つでも「1、2度あった」、または「何度もあった」と答えた人のみ、いくつでも)

- 相談した相手は「友人・知人」が最も多く、次いで「家族」、その他はごく少数であった。
- 女性より男性の方が「相談しなかった」と答える人の割合が高い。

「相談しなかった」が全体56.6%、女性50.9%、男性67.9%と最も多く、次いで「友人・知人」、「家族」という順になった。

「相談しなかった」では男女間で17.0ポイントもの差がついており、男性は被害を相談しない人の割合が非常に高い結果となった。

■ 図37 被害の相談先



単位：(%)

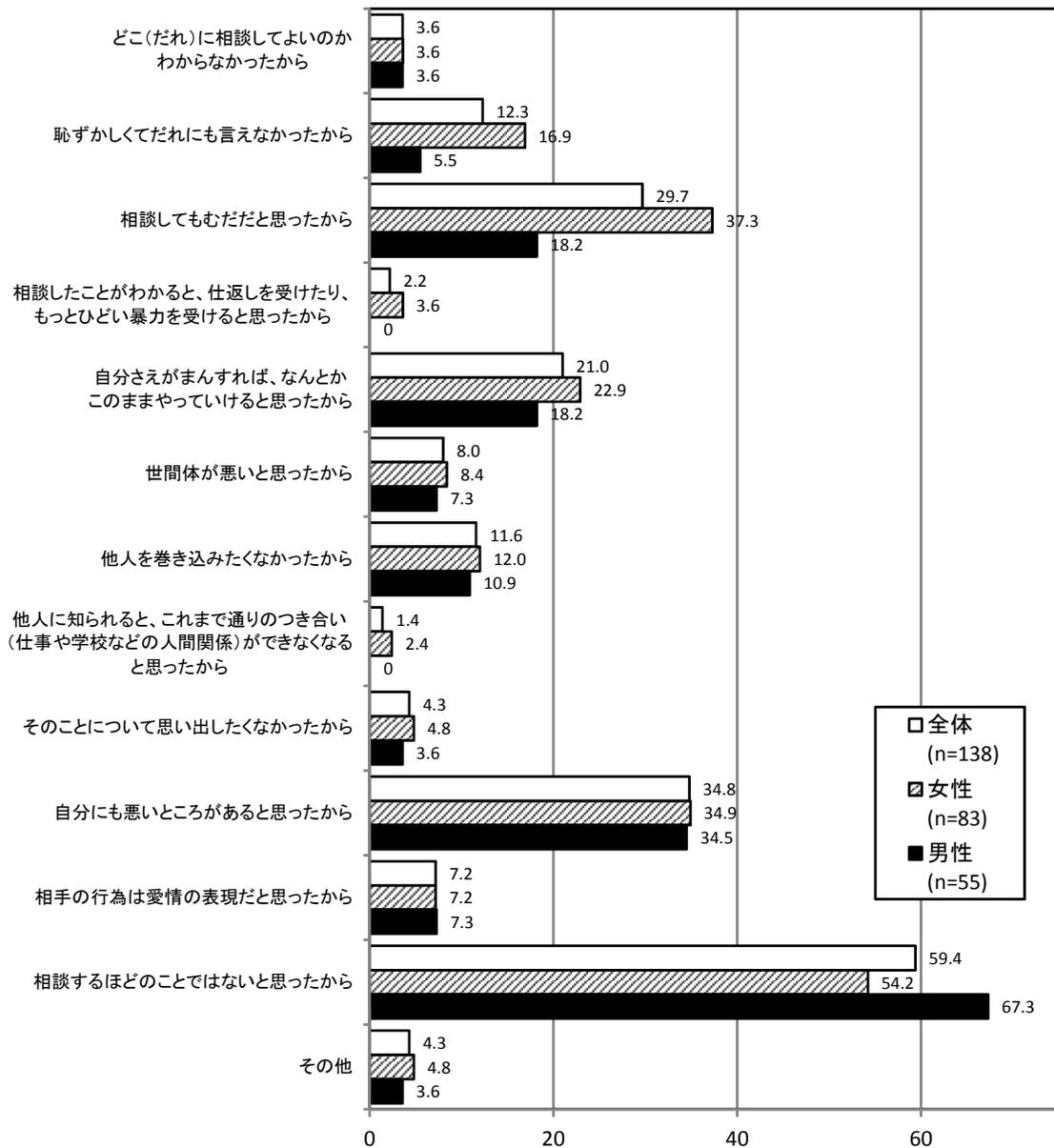
問23 相談しなかったのは、なぜですか。(問22で「相談しなかった」と答えた人のみ、いくつでも)

○ 最も多かったのは「相談するほどのことではないと思った」であり、次いで「自分にも悪いところがあると思った」、「相談してもむだだと思った」という順になっている。

「相談するほどのことではないと思ったから」との理由が全体59.4%、女性54.2%、男性67.3%と最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」全体34.8%、女性34.9%、男性34.5%、「相談してもむだだと思ったから」全体29.7%、女性37.3%、男性18.2%となっている。

男女別にみると、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」が女性16.9%、男性5.5%で11.4ポイント差、「相談してもむだだと思ったから」が女性37.3%、男性18.2%で19.1ポイント差となっており、男女の意識に差がみられる。

■ 図38 相談しなかった理由



単位：(%)

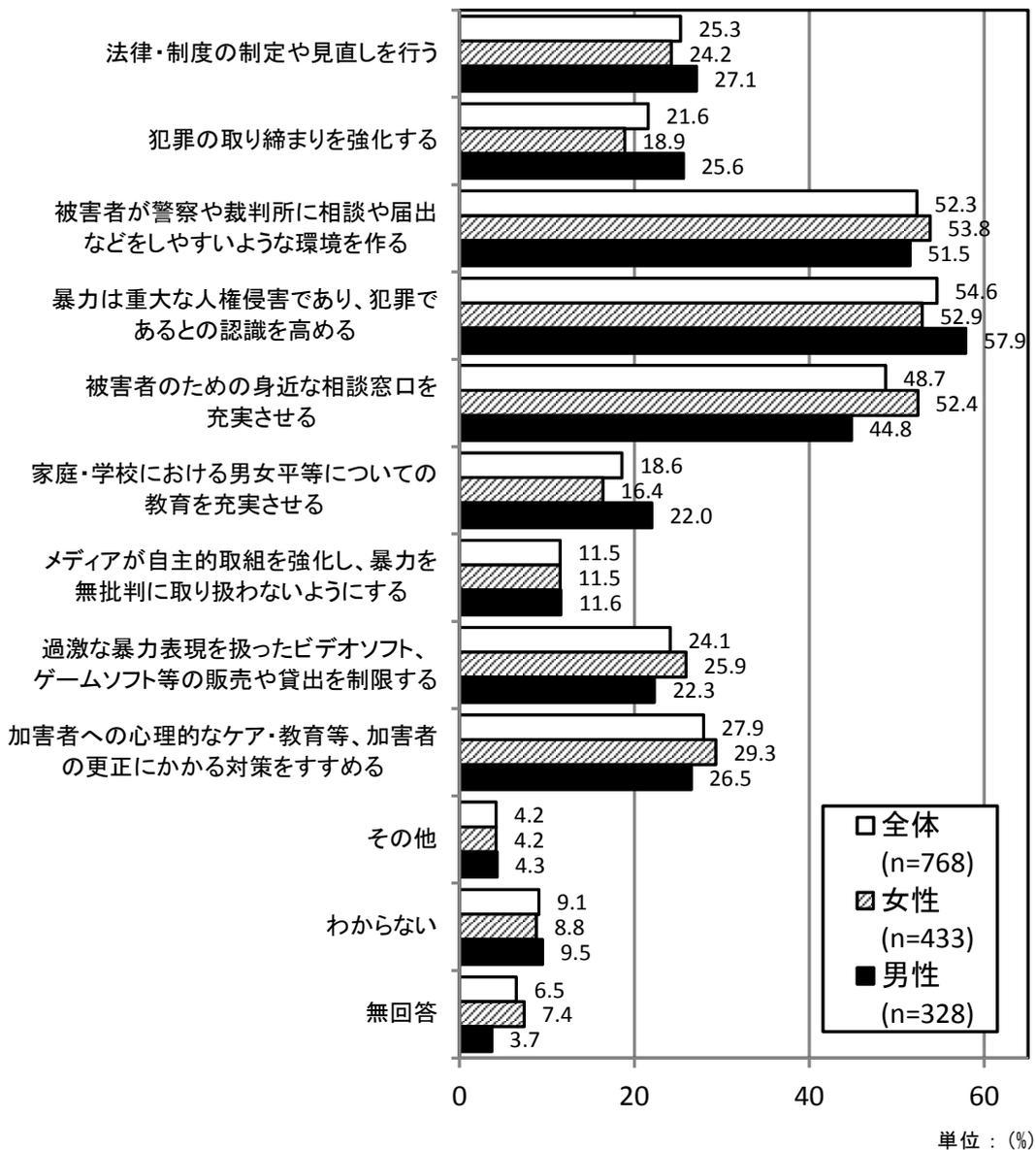
問24 パートナーからの暴力をなくすためには、どうしたらよいと思いますか。

○ 「暴力は犯罪であるとの認識を高める」、「被害者が相談・届出しやすい環境を作る」、「被害者のための相談窓口を充実させる」ことを求める回答が多い。

女性では「被害者が警察や裁判所に相談や届出などをしやすいような環境を作る」が53.8%と最も多く、次いで「暴力は重大な人権侵害であり、犯罪であるとの認識を高める」52.9%、「被害者のための身近な相談窓口を充実させる」52.4%となっている。

男性では「暴力は重大な人権侵害であり、犯罪であるとの認識を高める」が57.9%と最も多く、次いで「被害者が警察や裁判所に相談や届出などをしやすいような環境を作る」51.5%、「被害者のための身近な相談窓口を充実させる」44.8%となっている。

■ 図39 パートナーからの暴力をなくすために必要なこと



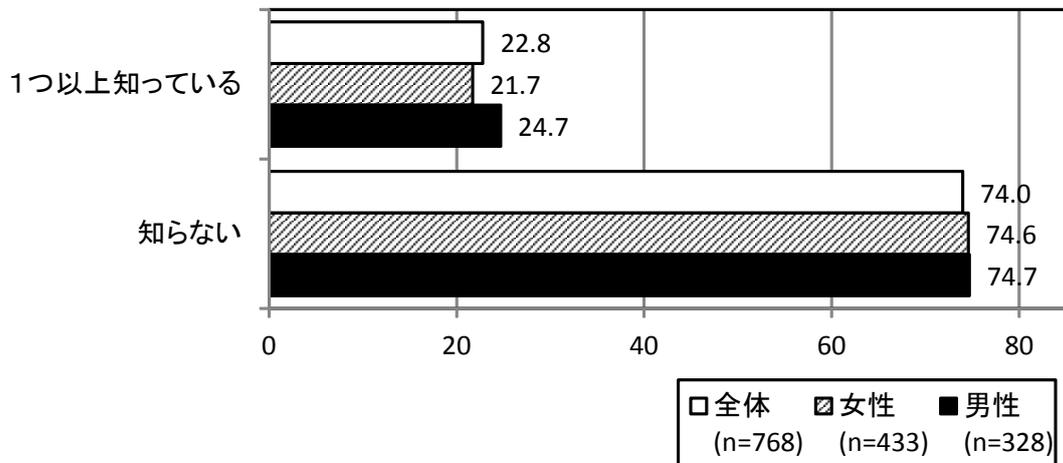
9. 男女共同参画センターについて

問25 県が男女共同参画社会づくり推進のために設置した次の施設をご存じですか。

- 秋田県北部男女共同参画センター（大館市馬喰町）
- 秋田県中央男女共同参画センター（秋田市アトリオン内）
- 秋田県南部男女共同参画センター（横手市神明町）

男女ともに、「1つ以上知っている」との回答は2割程度にとどまっている。

■ 図40 男女共同参画センターの認知について



単位：(%)

10. 自由意見

男女共同参画について、あなたが日ごろ考えていることをお聞かせください。

寄せられた自由意見の件数は241件であり、主な意見・要望を掲載した。

また、その内容は「男女共同参画に関する意識について」、「男女共同参画社会の形成について」、「就労・労働環境について」、「男女共同参画教育について」、「男女共同参画に関する啓発活動について」、「子育てについて」、「行政の取り組みについて」、「家庭生活について」などとなっている。

■ 男女共同参画に関する意識について

【主な意見】

- 男女共同参画については抵抗も違和感もあった。共働きであっても男は男の役目、女は女の役目と言うものがあるべきだという考えは持っていたが、近年女性の管理職も増えている中で、男女共同参画もあるべき姿だということが最近、やっと自分なりに理解できてきたように思う。(女性 70歳代)
- 男女それぞれに役割があると思う。何でもかんでも平等が良いか、きちんと考えた方が良い。それぞれの特性、能力を生かした生活環境作りが重要であると考える。(男性 20歳代)
- 何でも男女同じとは少し違うと思う。やっぱり女は女らしく、女だけのやる事があり、男の仕事もある。(女性 50歳代)
- 男性が女性だからということで配慮している部分がみられ、女性がそれを当然だと受けとる時がある。女性も最後まで責任と義務を果たすという強い意志も必要だと思う。(男性 50歳代)
- 教育の場、会社、法律での平等をうたう事よりも、意識を変えなければ何も変わらないと思う。田舎であればある程、男は仕事、女は家庭という考えが根強く、子供を預けて女性が仕事に出る事に対しての理解が進まない事があると思う。(女性 30歳代)
- 日本の慣習上、良くも悪くも男女平等が合わない面がある。(男性 20歳代)
- 女性も働いていれば男性も協力する。家事は女性と置いていけばつらい。自分は60代なので男性が家事をするということは考えられなかった。殴られてもじっと我慢する生活だった。息子達は一緒に子育てをして、一緒に家事をやっている。変化を感じる。(女性 60歳代)
- 男女平等といっても、男性が子供を生むことはできないし、女性が重労働をするのは体力的にたいへんなこと。それぞれ体質の違うものなのだから、それぞれ適した仕事があると思う。それをお互いに理解し合い、尊重し、協力し合う事が、大切な事だと思う。家事にしろ仕事にしろ、やればできることであれば分担し合えないことはお互いに補い合い…ということが平等ということではないか。(女性 40歳代)
- 本当の平等はこの世にはありえないと思う。格差は絶対に生まれる(資本主義なので)。このなんでも平等の風潮は、いかがなものかと。色々な問題をのりこえて男女共同や平等であればよいと思う。(男性 30歳代)
- 男性の得意分野、女性の得意分野があると思うので、性別にとらわれずお互いを尊重し、思いやりをもって接することで、男だから、女だから、ということとはなくなると信じたい。(女性 40歳代)
- 自分が幼少の頃よりはずいぶんと男女平等であると感じる時代になったと思う。しかしながらやっぱり男社会である事には変わらないと思う。(現代は男性が弱すぎるのでは?)(男性 40歳代)

- 男性側の理解も大切だが、女性自身の努力が一番必要。女性である事に甘えない。(男性 50歳代)
- 家事、職場でも男女ともそれぞれ協力し自分のベストを出すべき。(男性 60歳代)
- 男女共同参画については理解できるが、あまり強調することには反対である。女性は子どもを出産し、子育ても必要になるが、男性には出産はできない。男女共同参画が少子化につながっていると思う。(男性 70歳代)

■ 男女共同参画社会の形成について

【主な意見】

- 自分は育児も介護も終わってしまったが、子供には家事を手伝わせるし、そのように躰けてきたし、今もパートナーに協力するように話している。小さい時から話し合い、協力して生活することが男女共同参画につながっていくと思う。(女性 60歳代)
- 自然に男女(夫婦)助け合って生活ができ、女性でも社会参加できる家庭環境及び社会であって欲しい。(女性 40歳代)
- 男女の違いを知り、お互いをカバーできる社会になればいいと思う。(女性 20歳代)
- 若い世代(20代)は男女の差別がない意識が高いが、それ以上はまだ男性社会の考えに固執していると感じる所があるのでそのような社会通念を改める社会になって欲しい。(女性 30歳代)
- たとえ男女同権と言えども、そこには歴然たる性差があり、力仕事は男、内向きは女といった社会通念があるが、男性の活力、女性の細やかな気配りなど、お互いの長所を融合させた環境作りを醸成させることで、より成熟した社会の実現に一步近づくことができると思う。(男性 50歳代)
- 男女共同参画の件は考えたこともなく、身近な所で思い起こせば、町内での行事には男性の参加が少ない。もっと大勢の男性方の参加があれば男女共同参画は良い方向に行くと感じている。(男性 60歳代)

■ 就労・労働環境について

【主な意見】

- 子供の行事、病気の際は必ず母である私が行かなくてはならない。パートであるためその分賃金が引かれるし、何度もだと休んだり早退などしづらい。主人に頼んでも「なぜ男の俺が!？」とはっきり言われた。また、主人の親がそうであるように家事は全て女の仕事と思っている。少なくとも我が家は男女平等では決していない。(女性 40歳代)
- 男性の働く環境で育児休暇が取りづらい。事務の人は部署イメージアップで取れるが、他はその当人でないと仕事が進まないという事もあり取りたくても取れない。働いている女性が妊娠する事自体悪く思う人もいるので、出生率ものびないし、女性が働く環境も整わない。(女性 30歳代)
- 優秀な人材はどんどん登用されればいいが、優秀でもないのに、男女共同参画の名のもとに登用するようなことは絶対にやめてほしい。(男性 20歳代)
- いつでも男女平等であってほしい。(職場にて) 多少の失敗でも女性には優しくすぎる。駄目なものは駄目とはっきり言える社会を望む。(男性 30歳代)
- 身体的に違うのだから、男女が同じ仕事(内容によりますが)でどうのと考える事もおかしいと思う。(男性 50歳代)
- 女性も必要とされている仕事は多くあると思うが、子育ての時に仕事を離れてしまうと再就職することが難しい環境が多く、家庭で子育てする事になり思い通りにできない事が多いと思う。(女性 60歳代)
- 自分の職場は女性が8割の会社だが、管理する人は男性しかおらず男女の差を

感じる。上司が女性だと仕事でも体調でも相談しやすいのと思う。男女平等と言ってもやはり男は仕事、女は家事のイメージがとれていない。(女性 20歳代)

- 女性の働く事について会社の体制が整っていない為、会社の上司に嫌な事を言われたりしている。育児についてもっと理解のある職場体制、社会体制に変えないと女性が働きやすい時はこない。(男性 20歳代)

■ 男女共同参画教育について

【主な意見】

- 小・中・高と続けて今回の課題を教育してもらいたい、又县市町村が各地域で今回の男女共同参画や生活実態、DVなどアンケートを元に冊子を作り、全戸に配布してほしい。男女が共に働き、出産、育児、介護、世話などがある時は制度を利用してすぐに休める世の中であってほしい。(男性 40歳代)
- 団塊の世代の年令であり、今だに、早期(小中高)に受けた教育からは男女共同参画と言われてもピンとこない。結婚後主婦業で、家庭にとじこもったせいもあるかもしれないが。(女性 60歳代)
- 家事などでも、小さい頃から教えていけば自然と身につく男女の差なく、出来ると思う。小さい頃からの教育は男女関係なく必要だと思う。(女性 20歳代)
- 現役時代、単身赴任も経験したので、炊事等も特別苦ではないが、今は台所に立つ事を拒否されている。古い考えだろうが、ある程度、体に染みついた男女の役割分担があるとすれば、何もかも男女平等というのは無理がある。子供の時から教育(親も含めて)を行い、少しずつ文化を変えていくより方法がないのでは…と思う。(男性 60歳代)

■ 男女共同参画に関する啓発活動について

【主な意見】

- いろいろとPRされているが、地域での研修会や勉強会など開いてほしいと思う。(女性 60歳代)
- よく聞く言葉だが、具体的なイメージがわからない。「参画」とは何なのか、男女平等社会とは違うのか、とってしまう。男女共同参画とは何か、具体的にどういう事を言うのかを県民にわかりやすく説明していく事の方が先なのではと感じる。あいまいな表現ではなく誰でもわかる、かみくだいた表現で。(男性 50歳代)
- 正直、良く分かっていないので、テレビなどでもっと取り上げてほしい。(女性 20歳代)
- 個人の自覚が問題だと思う。関心があるかないかにかかっているのではないか。地方においては行政機関が周知活動を積極的に展開して欲しい。(男性 60歳代)

■ 子育てについて

【主な意見】

- 育休を取りやすい職場環境の整備、保育所の施設数の増加等課題は山積していると思う。男女共同参画についてきちんと取り組まれることを願う。(男性 20歳代)
- 職業柄(教育関係)、子育てについて考え、やはり子育ては男性も女性も一緒になって行うものだと思っている。女性ばかりが子育て、家事とがんばりすぎているのが保護者や子どもの様子を見ると伝わってくる。男性も進んで子育てを行う社会になってほしい。(女性 20歳代)
- 子育てが女性中心に行われている日本の社会では男女共同参画、特に女性が働

いて自立するのは難しいと思う。特に小さい子供をもって一人で育てている女性の自立就労が難しい。この前、病弱な子供を一人で育てている女性が、子供の病気で月に何度も会社を休んでしまい、会社にいられなくなり退職してしまった。今の日本の職場はどこでもそういう状態にあるのではないか。会社は社員の子育てなど全く理解がない。子育てを家族だけではなく、社会全体で行うような社会にしないと男女共同参画はできないと思う。(男性 40歳代)

- 離婚をし、子供一人育てている状況にある。シングルマザーになり今まで以上に女性が働き、生活をする事への心配が高まった。昔よりも今は女性に対し、平等になりつつあると思うが、やはり仕事での平等はまだ難しいのだなと実感した。ハローワークに行っても「23歳」で仕事はあるが、「子供」がいれば落とされる。男は失敗してもやり直しがきくが、女性はまだ弱い地位にいると思う。(女性 20歳代)

■ 行政の取り組みについて

【主な意見】

- 行政側の組織において、昇格などにおいても男女平等にすること。(男性 60歳代)
- 各企業に男女共同参画を強く、県の方で促してもらいたい。(男性 50歳代)
- 男女雇用機会均等法の施行が、結果的に晩婚化・少子化につながっていると考えている。(男性 30歳代)
- 男女共同参画もいいことではありますが、女性が仕事で自立が出来ると、婚期が遅れるし、一生未婚の人もある。今一番大切なのは、少子化問題と雇用だと思う。男性に家族を余裕で養う力があれば、子供も増えるし女性も育児、教育も出来る。秋田の企業の若者には養う力はない。県庁で30歳頃まで必ず結婚することを義務付けることなどの斬新な規則を作るのはどうか。(女性 50歳代)

■ 家庭生活について

【主な意見】

- 自分達の年代は、女性が仕事に就いていても、職場、家事、子育て、双方の親の介護と全て女性の肩にかかっていた。過労のため早期退職をした後も、家の事は女の仕事と、夫は理解しようとはしてくれない。体が不自由なため夫の付き添いが無いと買い物もままにならない状態。自分の様な人生をこれからの世代の女性には送らせたくない。「男女共同参画」を推進してほしい。(女性 60歳代)
- 子育ては片手間にできるものではない。保育園まかせにしていると後でしっぺ返しが必ず来る。日本の男性は働きすぎ。もっと家庭の時間を！子育て一段落した女性が働ける環境を整えてほしい。小学生の学童も、1ヵ月単位でなくとも1日何時間いくらというのがあればうれしい。(女性 30歳代)
- お互いにパートナーとして楽しい人生を送る為、役割分担して生活を送る。(男性 60歳代)
- 年配者が(自分の親)、男は働き、家の事は全くしないというのがあたりまえと思っているので、妻の負担が大きい。三世代の同居だが、年配者が現代情報がわからなすぎてなかなか協力を得られない。(男性 30歳代)
- 今は少子高齢化で介護の心配もあると思うので共働きも定年まで続けられない家庭も出てくると思う。そうなるとどちらかと言うと女性の方が職を失うことになる世の中なので、その点を夫婦で話せるようになればいいと思う。(女性 50歳代)
- いつの時代もパートナーを尊重した行動をとるべき。自分もそうして38年結婚生活を送っている。(男性 50歳代)

